

## 9月17日ワクチン分科会の議論を踏まえた対応方針

テーマ	論点	対応方針
(1)-1 交互接種	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交互接種の安全性に鑑み、交互接種を可能とするか</li> <li>● 可とした場合、接種間隔をどうするか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>1回目と2回目は同一のワクチンを接種することを原則</b>としつつ、以下のような場合への対応として、一定の要件のもとで<b>交互接種を行うことができるよう、予防接種実施規則及び予防接種実施要領を改正</b>する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回目のワクチン接種後に重篤な副反応等が生じたため、2回目に1回目と異なるワクチン接種を受ける場合</li> <li>・ 国内の流通の減少や転居等により1回目と2回目に同一のワクチンの接種を受けることが困難な場合 等</li> </ul> </li> <li>● 諸外国における研究結果等を踏まえて更に必要な場合等への対応を引き続き検討する</li> <li>● 諸外国の対応状況等を踏まえ、<b>1回目の接種から2回目の接種まで27日以上の間隔をおくこととする。</b></li> </ul>
(1)-2 他疾病のワクチンとの同時接種	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新型コロナワクチンと他疾病のワクチンを同時接種した場合の有効性・安全性は担保されるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在、異なる種類の生ワクチン（注射）同士を接種する場合のみ27日以上の間隔を設けているところ。新型コロナワクチンと他疾病のワクチン（季節性インフルエンザワクチン等）との同時接種に関しては、有効性・安全性に関する十分な知見が得られていないことから、<b>現時点では13日以上開ける</b>こととしている。</li> <li>● <b>更なる有効性・安全性に関する知見を収集し、一定の間隔をおくか否か引き続き検討する。</b></li> </ul>
(1)-3 既感染者への新型コロナワクチン接種	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既感染者に対する、新型コロナワクチンの接種回数は1回接種で十分か</li> <li>● 新型コロナウイルスの感染から回復後、新型コロナワクチン接種までに一定の間隔が必要か</li> <li>● モノクローナル抗体による治療を受けた後の、新型コロナワクチンの接種時期をどう考えるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現時点では、既感染者に対して積極的に1回接種を推奨するには科学的知見が不足していることから、既感染者に対しては<b>2回の接種を推奨することとし、更なる知見の収集を踏まえ、必要な対応を検討</b>する。</li> <li>● ワクチン接種を希望する既感染者が、円滑にワクチンを接種できるように、以下の内容を明確化する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルスの感染から回復した段階で、ワクチン接種を受けられること</li> <li>・ モノクローナル抗体による治療を受けた場合であっても、本人が速やかにワクチン接種を希望する場合は、治療から90日経過していなくても接種可能であること</li> </ul> </li> </ul>
(2)追加接種 (3回目接種)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 免疫持続等の考え方</li> <li>● いつ開始すべきか</li> <li>● 誰を対象とするか</li> <li>● 使用するワクチンについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内外の感染動向やワクチンの効果の持続期間、科学的知見や諸外国の対応状況等に鑑み、<b>追加接種の必要あり。</b></li> <li>● 追加接種の時期は、諸外国の動向や現時点で得られている科学的知見から、<b>2回接種完了から概ね8ヶ月以上後</b>とする。 ※<b>今後の更なる科学的知見を踏まえ、必要に応じて適宜見直す</b>こととする。</li> <li>● 追加接種の対象者は、<b>更なる科学的知見や諸外国の対応状況を踏まえ</b>判断する。</li> <li>● <b>使用するワクチンは、1・2回目に用いたワクチンと同一のワクチンを用いることを基本としつつ、更なる科学的知見等を踏まえ、早急に結論を得ることとする。</b></li> </ul>

## 年齢階級別接種実績

## ○接種率

(9月27日公表時点)

	12歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
1回以上接種者	41.90%	51.16%	55.50%	65.52%	76.95%	83.37%	87.14%	92.11%	93.62%	91.90%	85.58%
2回接種完了者	20.57%	33.23%	35.98%	46.70%	63.26%	77.08%	85.46%	90.82%	92.21%	89.97%	82.86%

## ○接種回数

	12歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
人口	9,010,292	12,819,569	14,372,705	18,424,463	16,810,584	7,412,109	8,098,283	16,227,232	9,058,480	2,303,363	80,636
1回以上接種者	3,774,877	6,558,053	7,977,309	12,072,503	12,935,342	6,179,435	7,057,200	14,946,999	8,480,905	2,116,883	69,012
2回接種完了者	1,853,606	4,259,864	5,171,456	8,604,415	10,633,707	5,713,246	6,920,420	14,736,827	8,352,884	2,072,350	66,815

注：被接種者の年齢分布は、ワクチン接種記録システム(VRS)に報告済みのデータのみにより把握可能であるため、接種率の算出においては、VRSへ報告された、一般接種（高齢者を含む）と先行接種対象者（接種券付き予診票で接種を行った優先接種者）の合計回数を使用。

使用回数には、首相官邸HPで公表している総接種回数のうち、職域接種及び先行接種対象者のVRS未入力分である約1000万回分程度が含まれていない。

注：VRSに報告済みデータのうち、年齢が不明なものは計上していない。

注：年齢階級別人口は、総務省が公表している「令和3年住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）」のうち、各市区町村の性別及び年代階級の数字を集計したものを利用しており、その際、12歳～14歳人口は10歳～14歳人口を5分の3したものを使用。